



ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「海外展開を行う草の根のユネスコ活動」
【キリバス民間ユネスコ協会設立予備調査プロジェクト】
 運営協議会委員・リソースパーソン名簿

- | | | |
|--------|---------|--------------------------------------|
| 運営委員 | 工藤 昌雄 | 東北ブロック・ユネスコ協会連盟 代表理事 |
| 運営委員 | 引地瑠美子 | 日本ユネスコ協会連盟 副会長 / 白石ユネスコ協会 顧問 |
| 運営委員 | 山田 卓郎 | 白石ユネスコ協会 会長 |
| 運営委員 | 西村 勝男 | 塩竈ユネスコ協会 事務長 |
| 運営委員 | 荒木 英夫 | 気仙沼ユネスコ協会 会長 |
| | 佐藤由美子 | 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会 |
| | 浅野 亮 | 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会 |
| 運営委員 | 阿部 弘康 | 富谷ユネスコ協会 会長 |
| | 二階堂浩一郎 | 富谷市教育委員会 教育次長 |
| 運営委員 | 桜井 愛子 | 東北大学災害科学国際研究所 / 東洋英和女学院大学国際社会学部 教授 |
| 運営委員 | 大安 喜一 | 公益財団法人 ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 教育協力部長 |
| 運営委員 | 上原 浩之 | 気象庁 仙台管区気象台 気象防災部 気候変動・海洋情報調整官 |
| 運営委員 | 岩館 敏昭 | 環境省 東北地方環境事務所 環境対策課 課長 |
| | 原田 和昭 | 廃棄物対策等調査官 |
| 運営委員 | 市瀬 智紀 | ESD/ ユネスコスクール・東北コンソーシアム委員長 宮城教育大学 教授 |
| 運営委員 | 井上 郡康 | 東北地方 ESD 活動支援センター 統括 |
| 運営委員 | ケンタロ・オノ | 一般社団法人 日本キリバス協会 代表理事 |
| アドバイザー | 尼子 美博 | 公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟 事業部副部長 |



公益社団法人 仙台ユネスコ協会
 〒980-0803 仙台市青葉区国分町3丁目1-1 仙台第一生命ビル 5階
 TEL:022-224-2581 / FAX:022-302-3406
 sendai@unesco.or.jp <https://www.unesco.or.jp/sendai/>

2020年度 ユネスコ未来共創プラットフォーム事業「海外展開を行う草の根のユネスコ活動」

キリバス民間ユネスコ協会 設立準備プロジェクト 報告書

公益社団法人 仙台ユネスコ協会



事業趣旨

グローバル化や気候変動など地球規模で環境が変化する中、「2014-2021 ユネスコ中期戦略」は「平和、文化間の対話・寛容・相互理解の促進」とともに「持続可能な発展」を地球規模の目標として掲げています。また、地域レベルでの活動目標として、青少年（ユース）の参加によるユネスコ活動を促進するために、優れた活動と生活のために必要な能力を習得させるべく、学校教育・社会教育等を通じた教育の推進があげられています。

キリバス共和国は、美しい自然と海洋資源に恵まれた国ではありますが、小島嶼国が直面する特有の課題に加え、気候変動の影響を最前線で受け、持続可能性すら脅かされているのが現状です。

同国と深い関係をもつ仙台ユネスコ協会は、両国間の相互理解とSDGsのゴール13である「気候変動への具体的な対策」を含むSDGsの実現に焦点を当て、目標達成の方法として、教育とパートナーシップを重視していくプロジェクトを立ち上げました。キリバス国内のユネスコスクールをはじめとする教育機関や関連団体におけるユースの教育を通し、ユネスコの精神を広め、SDGs達成を支援し、その官民のパートナーシップを推進する「キリバスユネスコ協会（仮称）」の立ち上げに対する支援を目指すもので、同時に、日本国内においては、世界に目を向け持続可能な社会の担い手となるユースの育成の活動を行っています。

コロナ禍という世界的な問題に直面した2020年、キリバスと仙台は、パートナーシップによって未来に希望を繋ぐ一歩を踏み出しました。



キリバス共和国

赤道と東経180度線が交わる辺り、太平洋のど真ん中にあるキリバス共和国は、西から首都タラワがあるギルバート諸島、ユネスコ世界自然遺産に登録されているフェニックス諸島、世界で一番最初に朝日を迎えるライン諸島からなる、33の美しい島々が東西5000キロの広大な海域に散らばる国です。1979年にイギリスから独立し、日本とも非常に深い関係があります。サンゴの環礁でできており、海拔は平均で2メートル程度しかありません（バナバ島を除く）。自然と調和しながら生き、穏やかで歌と踊りが大好きな約11万人（2015年現在）がふるさとと呼ぶ、まさに南洋の楽園の島々です。しかし、気候変動によって最悪の場合、2050年には人が住めなくなる可能性があるとして世界銀行などの国際機関が予測している、気候変動の最前線国です。（一般社団法人日本キリバス協会案内より）

同国にあるフェニックス諸島は世界最大の海洋保護区として2010年にユネスコ世界遺産に登録されています。また、首都の南タラワ及びベシオの小中学校、国立高校であるKGV/EBS校の計14校（小学校10校、中学校3校、高校1校）はユネスコスクールとして登録されていますが、キリバス国内では民間ユネスコ活動が行われておらず、ユネスコ世界遺産もあまり活用されていません。



成果と展望

(1) キリバス国内におけるユネスコ活動の活性化

●実践と成果

○3回のヒアリングをリモートにより実施

このヒアリングで、キリバスにおける民間ユネスコ活動やユネスコ協会がまだ存在しない現状が確認でき、また日本との交流や民間ユネスコ活動に対するニーズを確認することができた。加えて、シーズもある程度イメージすることが出来たことから、協会運営を担う人材育成を実現するため、今後キリバスユネスコ国内委員会を管轄するキリバス教育省及び日本キリバス協会と、そのキリバス国内連携先であるHimawari Enterprise等と連携し、2021年度の事業で具体的なシーズ確認を行う。

●次年度以降の展望

○具体的なシーズ確認

○(可能であれば)キリバスへ渡航、関係者とともに同国ユネスコ協会設立の支援に向けた合意形成および中長期事業計画の策定

○設立準備会の立ち上げ

○キリバスユネスコ協会設立、仙台ユネスコ協会との連携協定を締結

○協定をもとに日本とキリバスにおける教員の交流事業を実施、人材育成事業に取り組む。

(2) キリバスを切り口にした国内におけるユネスコ活動

●実践と成果

○出前授業を仙台市内小学校2校で実施

○教員グループによる、キリバスを切り口にした6年生社会科小単元「世界の未来と日本の役割」(7時間扱)の指導計画作成、実践

出前授業と教員によるプログラム作成の2本立てで実践したが、両者とも教員、児童の反応が大変よく、キリバスを切り口とした教育プログラムの価値を確認できた。しかしながら、コロナ禍対応により、教室への入室制限や検討会・研修会のリモート開催を余儀なくされ、VTR、YouTube配信などの工夫により実施した。

○キリバスを切り口にしたSDGsの学びと文化交流を視野に入れた研修会の実施(リモート)

運営協議会委員(リソースパーソン)の助言から、キリバスの日常生活や文化理解の研修会を開催、キリバスを身近に感じ、次年度以降の文化交流を視野に入れることができた。

●次年度以降の展望

○学習プログラムをキリバスモデル(仮称)として広報

○学習プログラム作成を他校種にも拡大

○市民レベルでの文化交流の実施

○両国教員の研修、交流

○ユネスコスクール登録校を中心としたユース交流

実績

月	(1)キリバス国内におけるユネスコ活動の活性化	(2)キリバスを切り口とした国内におけるユネスコ活動の活性化		
		諸会議等	英文リーフレット/報告書	授業プログラム
10月		23日 採択決定通知		
11月	16日 アンテ・トン前大統領 レター送信 16日 教育省レター送信	5日 第1回 Update Meeting 20日 第2回 Update Meeting 30日 実務担当打合せ		30日 第1回 Meeting
12月	2日 アンテ・トン前大統領から 承諾返信 7日 教育省から承諾返信 6日 ユネスコ・アピアレター送信 30日 第1回ヒアリング	7日 第1回運営協議会 15日 第3回 Update Meeting 19日 事務局内 ICT 環境整備打合	7日 第1回リーフレット 編集会議 15日 第2回リーフレット 編集会議 21日 第3回リーフレット 編集会議	23日 第2回 Meeting
1月	6日 第2回ヒアリング 21日 第3回ヒアリング	9日 事務局内 ICT 環境整備打合 28日 第4回 Update Meeting 29日 事務局内 ICT 整備作業	12日 第4回リーフレット 編集会議	27日 第3回 Meeting
2月		12日 第2回運営協議会 日 第5回 Update Meeting 日 講座 キリバスを知ろう	2日 第1回報告書編集会議 12日 第2回報告書編集会議	2日 仙台市立館小学校出前講座 16日 仙台市立台原小学校出前講座 日 仙台市立長命ヶ丘小学校授業実践
事業完了報告書提出				

キリバス関係者へのヒアリング

今後の連携に大きな期待

(2021年1月21日ヒアリング実施)

- 日本の若い世代との交流やユネスコの理念をキリバス国内に広げる民間ユネスコ活動は非常に有益であり、ニーズは高いと考える。ぜひ実現してほしい。
- 小学校のカリキュラム見直しを行い、ESDやグローバル・シティズンシップなどを含む「責任ある市民づくり」が教科横断的に導入された。
- ユネスコの精神、そして正義や女性・子供などの社会的弱者を守ることは、普遍の価値。キリバスでも受け入れられるものだろう。
- ユネスコやユネスコスクールとして特化した活動は今のところ行っていないと承知。また、知っている限りキリバス教員学校で国際交流は行われていない。
- 児童生徒のみではなく、教員や教員を目指す学生の国際交流は非常に有益。ぜひ実現を。
- キリバスの文化と言えはなんと言ってもキリバスダンス。小学校の段階から文化祭でキリバスダンスの披露があることから、日本の文化や芸能交流もぜひ実現してほしいことの一つ。
- ユネスコ大洋州事務所と教育分野で様々なプロジェクトを実施。現在、産業人材育成・職業技術訓練 (Technical and Vocational Education and Training : TVET) プログラムや教育ICTマスタープランの作成に対する技術支援を受けている。毎年行われる教育フォーラム (教育分野のドナー会議) にもユネスコ大洋州事務所の関係者が毎回出席。
- 女性の能力開発や社会進出を支援し、その機運を高めるために、キリバス国内で作られた服 (マウリウエア) を、毎週金曜日に国家公務員による着用を奨励。手工芸品などの交流の可能性も非常に高いと言って良い。
- 今後最大限支援するので、今後連携を深めていくことができれば大変ありがたい。

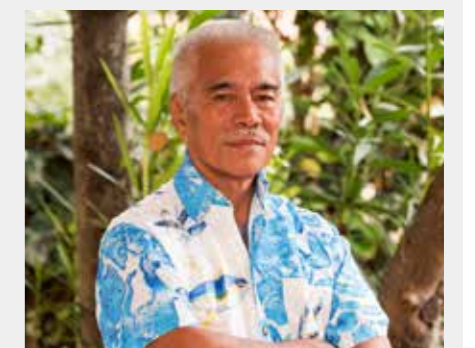


レーシナ・カトキター
キリバス教育省政策・計画・研究開発局長

フェニックス諸島保護海域＝地球と人類への貢献＝

(2021年1月6日ヒアリング実施)

- フェニックス諸島の海域はカツオ・マグロ類の産卵地であるが、キハダマグロと特にメバチマグロの資源量が著しく減っていたため、資源保護の重要性を感じていた。
- 大統領任期中、気候変動に関し世界へライフスタイルを少し変える犠牲を払ってほしいと訴えていた中、キリバスが何ら犠牲を払わないのはおかしいと考えた。このことから、地球と人類への貢献として、商業漁業を禁止し、キリバス最大の財源である入漁料歳入を少し犠牲にしてもフェニックス諸島を保護区化し、ユネスコ自然世界遺産に登録する決断をした。
- キリバス海域内のカツオ・マグロ類資源は我が国の所有物ではない。あくまでこれらの管理人であり、次の世代に持続可能な形でカツオ・マグロ類の資源を引き渡さないことは、管理人としての責任放棄である。世界各地で起こった資源の枯渇という過ちを再び犯してはいけない。



アノテ・トン
前キリバス共和国大統領

もったいない

(2020年12月20日ヒアリング実施)

- 海外との直接的な接点がほとんどなく、学校からドロップアウトし、機会が無いため有意義に時間をすごせず、酒や非行に走り社会問題を引き起こす者もいる。
- これらのユースに有意義な人生を送ってもらうため、そして日本の若い世代との交流やユネスコの理念をキリバス国内に広げる活動は有益だと思う。
- 歌や踊りなどアカデミックの分野以外で才能がある人がたくさんいるのにそれを生かす機会が少なく、とてももったいないと思う。キリバスの文化を外国に紹介したいと思っている若者はとても多いはず。
- 一人一人の活動よりもグループでの活動の重要性を知る若者が増え、自発的に組織活動しているユースがいる。こういった人たちがつながることができればいい。



アニータ・ユメミ・ジョング(右)
ヒマワリ・エンタープライズ



